

アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョン 骨子 (案)

《地域活性化ビジョンの位置づけ》

- ◆2030年頃の愛知を展望しながら、アジア競技大会の開催を契機とした、地域活性化のための施策を記載する。
- ◆大会前、大会中、大会後のそれぞれのステージにおいて、取組の方向性を示していく。

地域活性化ビジョン 4つの視点

- 視点1** スポーツの力を活かす
- 視点2** アジアと強くつながる
- 視点3** 多彩な人々が参加する
- 視点4** リニア開業を見据える

《あいちビジョン 2020 より》

2030年に向けた地域づくりの戦略

- ◆中長期的な展望を持った地域づくり
 - ・2020年の東京オリンピック・パラリンピックや2027年度のリニア中央新幹線開業を節目とした、新時代の都市圏づくり
 - ・団塊の世代の高齢化などの人口構造の変化を念頭に、人生90年時代における生涯活躍社会づくり
- ◆経済活力と県民の豊かな暮らしの好循環のもとで、活力と持続力のある大都市圏として発展

施策の体系 4つの柱

1. スポーツで愛知をブランディングする【スポーツ・健康】

1-1. トップアスリートの育成・輩出

多くのトップアスリートを発掘し、育て、活躍する仕組みをつくる。

1-2. スポーツの振興

スポーツの場づくりや機会づくりにより、多様な形でスポーツに親しむことができる環境をつくる。

1-3. スポーツ大会の招致

全国レベル、国際レベルの様々なスポーツ大会を愛知県に招致して開催する。

1-4. アジアのスポーツ振興への貢献

アジア全体のスポーツ振興に貢献するため、アジアと愛知とのスポーツ交流を進める。

2. 多くの来訪者で賑わう愛知をつくる【観光・文化】

2-1. 観光交流拠点県としての機能強化

周辺地域とともに広域的な観光交流拠点県の特性を生かしたアジア向けのPR、プロモーション等を展開する。

2-2. スポーツ・文化等のコンテンツの充実

スポーツツーリズムや文化プログラムの展開など、コンテンツを活かした集客を図る。

2-3. 受入態勢の整備

インターネット環境の利便性向上、多言語対応、ムスリム対応などにより、外国人が快適に滞在できる環境を整備する。

※選手村の後利用については、別途検討しており、後に追加する予定

3. アジアにおける愛知の産業の存在感を強める【地域経済・産業】

3-1. 大会を舞台にした産業技術の情報発信

大会の各場面をアジア向けの見本市と捉え、先端技術や高度技術の活用、アピールの場とする。

3-2. 愛知のブランド力の強化

大会を活用した情報発信等を通じ、愛知の地場産業のブランド力の強化や農林水産物等のイメージアップを図る。

3-3. アジアからの人材確保

アジアと愛知との親密性を高め、アジアからの高度人材の受け入れ拡大を図る。

4. アジアと愛知の次世代を育む【人材育成・国際貢献】

4-1. ボランティアの育成

大会を支えるボランティアの育成を通じて、愛知におけるボランティア文化の定着を図る。

4-2. アジアとの交流の活発化

様々なレベルでの国際的な草の根交流などを通じて、アジアと愛知の交流の活発化を図る。

4-3. グローバル人材の育成

アジアとの交流を通じて、国際的に活躍のできるグローバル人材を育成する。

4-4. 共生社会の実現

出身、性差、障害の有無など、あらゆる多様性を尊重し、みんなが認め合い、支え合う社会の実現に寄与する。